

## 石井 伸暁さん

### 【はじめに】

この度、合格体験記を寄稿させていただきます。特に、私と同様の以下のような悩みを持つ方々に対し、少しでも合格を目指すためのお役に立てればと思います。

- ① 文章力に自信がない方（文章の作成・読解をする機会が少ない方）
- ② 子育て世代の方
- ③ 字の汚さが気になる方

### <<受験歴>>

H27年 - 1次試験合格/2次試験不合格 A/B/C/D 総合C （他校通学+MMC 2次直前対策講座・通信）  
H28年 - 2次試験合格 （MMC 2次試験対策 マスターコースV・通学）

初年度は1次試験合格後、他校の2次試験対策を受講しました。答練の度に解答欄を埋めきれない自分に不安を覚えていたところ、合格率の高いMMCを知り、飛びつくように通信講座を受講しました。MMCの解法技術に手応えを感じたため、2年目は迷わず通学受講を決めました。

### 【2次試験合格のために留意した点】

#### 1. 文章力対策（読解・文書作成）

私は普段から活字に縁遠い生活を送っていたため、文章の読解・作成に自信がなく、診断士試験の学習開始前から2次試験に対して高い壁を感じました。他校で始めた2次試験の学習当初は、1次試験の知識はあっても設問の題意がさっぱり分からず、事例文を読んでも頭に入らず、結果、SWOT分析など解答に必要な処理も満足にできませんでした。

ただ、試験対策のために文章力そのものを強化するというのは、どうも非効率な気がして腑に落ちませんでした。そこでMMCを活用してカバーしようと考え、以下の2つの課題・対策を掲げました。

課題①：読解力の低さを補う → 対策：設問と同じ言葉・似た言葉を事例文に探し、印をつける

解答を導く上で、設問毎に事例文からどの部分のヒントを使うのか、という点を考えるのは2次試験の難しさの一つだと思います。特に、他の事例より明確なヒントが少ない組織事例では、事例文からヒントが読み取れず、解答中は右往左往の連続ではないでしょうか。私自身、読解力の低さからか、逆にどれもこれもがヒントに見えてしまうこともありました。そこで答練で与件を読む際は、設問文中に含まれる言葉（同じ言葉・似た言葉）を機械的に事例文中から探し、印をつけていきました。

『この印の周辺の与件が、出題者からのヒントなんだ』

このように認識した後で与件を読み込み、ヒントだろうと思える部分を愚直に解答に使うことで、合格点（6割）を確保できる回数が高まりました。なお、これはMMCから教えていただいた取り組み方の一

つで、題意の分かりにくい設問に対応し、事例文に沿った解答を書く手法でもあります。

課題②：文章作成力の低さを補う → 対策：MMCの書き方の『コツ』をモノにする

MMCの講義では、講師の方が『〇〇のコツ』と表現して解説をされる事があります。コツの中身は、解答の導き方から具体的な展開方法・書き方などが含まれます。私は拙い文章作成力をカバーするため、展開方法・書き方のコツが登場した際は執拗に復習を重ねました。

例えば、事例Ⅱでは以下のコツを教えてくださいました。

- ・ ターゲット抽出が問われた場合のコツ
- ・ 競合戦略が問われた場合のコツ
- ・ インターネットの活用策を問われた場合のコツ

これらの『コツ』を繰り返し復習し、過去問に取り組む際にも活用しました。すると、答練や模試では、設問を読んだ段階で解答の書き方やキーワードが瞬時に浮かぶようになりました。後は、主語・述語を対応させる基本を守り、機械的に解答としての文章を作るようにしました。

## 2. 家庭対策

妻子がいれば、誰しものが両立すべき家庭と学習。私の1次試験の学習開始も次男が生まれる直前でした。妻は不運にも切迫早産にかかり、当時2歳だった長男はイヤイヤ期に入りました。長男の癩癩は非常に激しく、子育て世代の友人達からも驚かれる程でした。このような中で私はほぼ無休で学習し、自宅を離れる日々が続きました。妻は出産・育児・長男の癩癩の対応に追われて一切の休息を失い、みると憔悴し、表情を失っていきました。長男も私と自由に遊べる時間を求めています。

妻から育児の悩みについて相談を受けると、それが互いのストレスのぶつけ合いに繋がり、必ず夫婦喧嘩に発展しました。それでも私はストレート合格を優先させるため、妻をねじ伏せて学習しました。夫・父親としてどうなのかと自問自答しつつ、初年度は1次試験までは合格という結果だけに救われた思いでした。2次試験不合格を受け、学習計画を見直す中でようやく家庭との関係改善を図りました。

家庭も中小企業に例えれば、

- ① 体制面で、夫婦間の定期的な情報交換などコミュニケーションの不足
- ② 制度面で、家庭内の柔軟な育児支援制度の不足

これでは家庭のオペレーションがうまくいきません。

2年目は年次、週次で立案した学習スケジュールを妻と共有しました。また、答練・模試の点数や順位も妻に報告しました。一週間のサイクルは、平日とMMCに通学する日曜日は学習に当ててもらいました。一方、土曜日は子供が寝るまで学習は一切せず、子育てに参加しました。おかげで2年目は学習時間を確保すると共に、家族に絆が戻りました。海や山や遊園地に行き、充実した時間をたくさん過ごすことができました。また、家族全員が毎朝「お仕事、勉強がんばって!!」と応援してくれました。

ただ、答練や模試の結果を妻と共有するのは失敗でした。点数が低いとチクチクと刺され…。

### 3. 悪筆対策

ご自身の解答を見て、字の汚さに不安を抱える方も多いと思います。私も字が小さく潰れてしまうクセがあります。答練の際は、読める解答にするための書き直しがタイムロスに繋がっていました。消しゴムのカスの多さに、隣に座る方に驚きの目で見られたこともありました。

悪筆のデメリットを強く意識したのは、MMCの講座に含まれる『合格答案研究講座』がきっかけです。これは受講生全員の答案を配布し、高得点答案を研究して技術を学ぶものです。具体的には、過去問を解いた後に全員の受講生が全員の答案を採点し、合格答案を選びます。受講生は優れた答案や読みやすい答案に触れると共に、短時間で大量の採点をこなす採点者としての貴重な体験ができます。

採点は講師の方々も行なってくださいます。私は、幸いにも講師の方々が選ぶ合格答案の一つに入ることができました。一方で、受講生からは誰ひとり合格答案として選ばれませんでした。つまり、内容は合格かもしれないが、採点者はしっかり読んでくれるとは限らない。私の文字は読みにくく、採点者の印象が低下する答案であることは明白でした。

私は悪筆の改善を決意し、講師の方々に指導を仰ぎ、以下の対策を行いました。

- ・解答欄のマス目いっぱい大きく文字を書くよう意識すること（中居先生より）
- ・タテ線、ヨコ線など、文字のパーツ毎に繰り返し書く練習をすること（大谷先生より）

#### 【合格後に思うこと】

今思えば、学習中は非効率なことも数多くしていました。2度と見ない学習カードやサブノートなど、無駄なツールを山のように作りました。財務の学習はあえて毎日しませんでした。義務感のみで学習すると、計算を殴り書きで済ませ、電卓を適当に打ち、間違えて放心状態になる事が多かったのです。

一方で、合格のために必要と確信したことは全て実行しました。MMCのカリキュラムは確実にこなしました。MMCの合格の武器である『MCサークル』と『キーワード・マトリクス』は、自分のモノにするために何度も自作しました。また、財務は毎月必ず集中特訓期間を設けました。そこではMMCで学んだ、ポカミスをしにくい設問条件の整理方法や、P/L、B/S、CF 計算書を用いた NPV などの「計算フォーマット」を頭に叩き込みました。慎重に計算に取り組めば、難問でも正答できるようになりました。

また、特に理由はありませんが、学習当初から仲間は一人もいませんでした。時折寂しい気持ちになりましたが、中居先生の勧めもあり、最後まで一人で学習しました。自分のペースを保持し、どんなことでも講師の方々へ質問させて頂きました。合格者以外の意見は一切参考にしませんでした。

2次試験当日を迎え、会場に持参したのは次の2つの資料です。私の性格を見抜いた中居先生や伊藤先生からかけていただいた言葉、『ファイターになるな』（=訳の分からない問題は戦わず、配点の50%の確保を狙え）と書いた1枚の紙。いつもの書き方、準備した方法で対応するため、MMCの解法技術が詰まった『学習ガイドブック』です。試験直前は「心の対策」だけを行っていました。

#### 【終わりに】

この体験記は2次試験合格発表の当日（H29年1月5日）に書いています。並行して実務補修の申し込みを済ませ、参加したい研究会の情報収集など、診断士一年目の活動計画を描き始めたところです。念願の資格を手にした今、充実感と共に、MMCと家族に対してとても大きな感謝を感じております。